



東京芸術祭特別公演

ファンタスティック・サイト「Undercurrents」 大橋可也 & ダンサーズ《Tune To A Dead Channel: Departure / Arrival》 Arrival ライブ配信 1月11日(月・祝)!

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が主催する東京芸術祭特別公演ファンタスティック・サイトでは、岩渕貞太、大橋可也&ダンサーズ、黒田育世が参加するフィルム&パフォーマンス「Undercurrents (アンダーカレント)」のうち、1つ目のプログラム、大橋可也 & ダンサーズ《Tune To A Dead Channel: Departure / Arrival》の Arrival ライブ配信(無料・要予約)を2021年1月11日(月・祝)16:00から行います。ぜひご覧ください。

Tune To A Dead Channel
街の喧騒をかきわけ、空きチャンネルに合わせろ。
東京西部に広がるヒトとモノの交差点、
電脳と電脳を結ぶ糸、何にでもなれる柔らかい鉄の身体。

概要

大橋可也 & ダンサーズ 《Tune To A Dead Channel: Departure / Arrival》

結成22年目を迎える大橋可也&ダンサーズが、古くから織物業で栄え、近代以降は鉄鋼業も盛んな「ものづくり」の街・八王子に登場。往還可能な2つの世界—街路で展開する「Departure」と、現役の工場で機械と人が入り乱れる「Arrival」を映像配信する(「Arrival」のみ先行ライブ配信)。サイバーパンクSFの嚆矢『ニューロマンサー』の冒頭に想を得たインダストリアル・ランドスケープ・パフォーマンス作品。

＜Arrival ライブ配信＞

日程:2021年1月11日(月・祝) 16:00 ライブ配信開始

撮影地:森崎工業第二工場(北八王子) ※オンライン配信のみ

料金:無料・要予約

予約期間:2020年12月22日(火)~2021年1月11日(月・祝)17:00まで

視聴可能期間:2021年1月13日(水)17:30まで

予約方法:予約フォームより必要事項を入力の上、送信してください。

URL: <https://ssl.form-mailer.jp/fms/61138551689419>

※ご予約の方にご視聴リンクをお送りします。

※個人情報厳重に管理し、本事業の運営およびご案内にのみ使用します。

主催:公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京

共催:東京芸術祭実行委員会[豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/トーキョー実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団(東京芸術劇場・アーツカウンシル東京)]

協力:フェスティバル/トーキョー実行委員会、八王子市、公益財団法人八王子学園都市文化ふれあい財団、株式会社カフス、公益財団法人セゾン文化財団 ほか

制作:NPO 法人アートネットワーク・ジャパン

振付・構成・演出:大橋可也

出演:大橋可也、後藤ゆう、横山八枝子、高橋由佳、ヒラトケンジ、阿竹花子、松尾望、田花遥、今井亜子、今井琴美

美術・音楽:涌井智仁/衣裳:るう(ROCCA WORKS) / 照明:遠藤清敏(ライトシップ) / 音響:牛川紀政

舞台監督:原口佳子(モリブデン) / ライブ配信ディレクション・撮影:石塚俊、村田啓、飯岡幸子

【アーティストコメント(大橋可也)】

ダンス作品を成立させるためには、ダンサーが振付を憶えていなくてはならない。逆にいえば、振付とは、振付家とダンサーが記憶を共有するための方法なのだ。「舞踏譜」と呼ばれるテキストを用いた振付法は、記憶をつくりだし共有するための舞踏の発明だった。今回の作品の振付は、ふだん東京に暮らす僕たちの記憶であり、八王子でともに過ごした記憶である。そして、あなたたちの記憶にもつながっているだろう。記憶の旅へ、空きチャンネルへ。

舞台作品のアーティストとして、観客を入れられない上演は不本意ではありますが、ライブ配信による映像作品だからこそ、振付とともに変化していく意識と身体、空間を丁寧に描き出したいと思います。この特別な機会をぜひともに体験してください。

【プロフィール】

○大橋可也(おおはし・かくや)



振付家、一般社団法人大橋可也&ダンサーズ代表理事。

1967年、山口県宇部市生まれ。横浜国立大学経営学部卒業後、イメージフォーラム附属映像研究所に学ぶ。1991年、カナダ・ヴァンクーバーにてパフォーマンスを始める。1992年から1994年まで、陸上自衛隊特別儀仗隊に在籍。1993年から1997年まで、「和栗由紀夫+好善社」の公演に舞踏手として参加、土方巽直系の舞踏振付法を学ぶ。1995年、独自の活動を開始。1999年、「大橋可也&ダンサーズ」を結成、振付作品の発表を開始する。2000年、「パニョレ国際振付賞横浜プラットフォーム」に出場するも、出演者が全裸であるという理由で非公開の審査になる。以降、2003年まで活動を休止。2004年に発表した『あなたがここにいてほしい』で「トヨタコレオグラフィアワードネクステージ」に出場。2013年、「舞踊批評家協会賞新人賞」受賞。2014年、「利賀演劇人コンクール奨励賞」受賞。ソフトウェアのエンジニアとしても活動し、企業の基幹システムからヒューマノイドロボットのアプリケーション開発まで手掛けている。

photo: 野村佐紀子

○大橋可也 & ダンサーズ



1999年、結成。テキストを用いた舞踏の振付法を基に現代社会における身体の在り方を問うダンスカンパニー。代表作に、秋葉原連続殺傷事件に想を得た『帝国、エアリアル』(2008年・新国立劇場)、飛浩隆の長編小説を題材にした『グラン・ヴァカンス』(2013年・シアター・トラム)、市川春子のコミック作品を題材にした『Lustrous』(2020年・横浜赤レンガ倉庫)がある。2013年より江東区を舞台にリサーチに基づくダンス作品を制作するプロジェクト「ザ・ワールド」を開始、2022年、『ザ・ワールド 2022』を発表予定。

<https://dancehardcore.com/>

photo: GO

▶ファンタスティック・サイト 公式サイト

<https://tokyo-festival.jp/2020/fantastic-site/>

※内容は変更になる場合があります。

Undercurrents お問い合わせ

東京芸術祭特別公演 ファンタスティック・サイト「Undercurrents」事務局

TEL : 03-5961-5200(平日 11:30~16:30 NPO 法人アートネットワーク・ジャパン内)

◇本リリースに関するお問い合わせ◇

東京芸術祭実行委員会事務局 TEL050-1746-0996(平日 10:00-18:00)